

西欧中世文書の史料論的研究：平成21年度研究成果 年次報告書

岡崎, 敦
九州大学大学院人文科学研究院：助教授

ディルケンス, アラン
ブリュッセル自由大学：教授

丹下, 栄
下関市立大学経済学部：教授

大浜, 聖香子
九州大学大学院人文科学府：大学院生

他

<https://hdl.handle.net/2324/1932628>

出版情報：2010-03
バージョン：
権利関係：

0. 平成 21 年度「西欧中世文書の史料論的研究」活動について

本書は、平成 20 年度より 4 カ年の予定で、科学研究費補助金の助成を受けて活動中の共同研究について、平成 20 年度と 21 年度の研究成果の一部をまとめたものである。

1. 共同研究の趣旨と目標

本共同研究の趣旨と活動目標については、昨年度刊行した『西欧中世文書の史料論的研究 平成 20 年度研究成果年次報告書』（2009 年 3 月刊行）に詳しい。ここでは、簡単に触れるにとどめたい。

本研究は、西欧中世文書史料を対象として、近年の西欧中世史学・史料論研究の動向を整理・分析し、重要な論点を提示・検討することを目的とする。近年、歴史学の実証基盤を揺るがす批判が多方面から提出されているが、実証的歴史学の立場から、このような動向を批判的に摂取し、対峙するためのもっとも有効な手段として、史料論に関わる問題関心がある。この際、伝統的に、西欧の史料学研究において中心的な地位を占めてきた文書系史料についての研究動向を調査して、現在、史学・史料論研究の最前線でどのような努力が積み重ねられ、新しい発想による研究が、いかなる論点を提示しているかを検討することは、以上の課題にそなえるための絶好の観測台の一つと考えられる。

具体的な活動目標としては、以下のものがある。

第一に、研究会活動を定期的に展開する。この際、専攻する時代や地域を異にする研究者を交えたシンポジウム、西欧中世史を対象を絞った個別研究報告会、欧米の研究者を招聘しての研究会の三種を、バランスを配慮しながら開催する。

第二に、研究動向の検討について、文献目録の作成と個別文献の内容の検討をすすめる。

第三に、研究会活動については、毎年年次報告書を作成して、その内容を公表する。研究動向の検討については、助成の最終年度に文献目録を中核とする報告書を作成する。

2. 平成 21 年度の活動と本報告書

平成 21 年度は、関係文献の調査・収集につとめるとともに、都合 3 回の研究会活動を実施した。研究会の詳細は、下記の研究会履歴のとおりであるが、それぞれは、以下のように位置づけられる。

1) 専攻する時代や地域を異にする研究者を交えたシンポジウム

第 51 回。研究会「西欧中世文書形式学の現在」

2) 西欧中世史を対象を絞った研究会

第 49 回。研究会「中世盛期における領邦君主の文書と文書局」

第 50 回。研究会「中世盛期・後期フランス都市における文書実践」

本報告書では、実施されたすべての研究会について、報告要旨と、本書のためにあらたに書き下ろされたコメントを掲載した。さらに、昨年度開催ではあるが、時期の関係から、昨年度の報告書には掲載できなかった「ディルケンス教授研究会」原稿を併載している。

研究会で行われた研究報告は、どれも鋭利な問題関心と作業の緻密さの両面で個別論文としての価値を有し、それぞれがしかるべき場所において、近々中に公刊されることであろう。この報告書は、各業績の速報であるとともに、各特集へのコメントを掲載することで、いわば学問の立ち上がる場についてのドキュメントという性格も合わせ持っている。その成果と価値については、読者諸兄姉のご意見、ご批判をまちたい。

最後に、研究会活動および報告書作成について、共同事業としてご参画いただいた方々に対して、研究代表者として、あらためて御礼申し上げます。

(岡崎敦)

研究会活動履歴 (場所の記載のないものは、九州大学文学部西洋史学研究室)

第49回

2009年7月12日(日)

共通テーマ「中世盛期における領邦君主の文書と文書局」

大浜聖香子「12-13世紀ポンテュー伯の文書と文書局 一伯の統治に関して一」

青山由美子「11-12世紀フランドル伯証書の伝来状況」

第50回

2009年9月12日(土)、13日(日)

共通テーマ「中世盛期・後期フランス都市における文書実践」

花田洋一郎「フランス中世後期における都市文書実践の諸相
一都市会計簿と都市評議会議事録一」

大宅 明美「ポワチエの都市カルチュレール作成と伝来をめぐる諸問題」

函師 宣忠「中世南フランスにおける公証人の文書作成と都市権力」

徳橋 曜、山田雅彦「コメント」

第51回

2009年11月21日(土)

慶応義塾大学日吉キャンパス独立館 206 教室

共通テーマ「西欧中世文書形式学の現在」

マーク・メルジオフスキ Marc Mersiowsky (インスブルック大学教授/MGH 共同研究員)

「カロリング帝国における政治コミュニケーション 一文書形式学の視点一」

"Politische Kommunikation im Karolingerreich: Der Blick der Diplomatie"

エレン・ヴィダー Ellen Widder (チュービンゲン大学教授)

「ドイツにおける中世後期に関する歴史学と文書形式学」

"Geschichtswissenschaft und Diplomatie des Spätmittelalters in Deutschland"